



かつて島は、人材の宝庫だった



田坂初太郎
(弓削島出身)



濱田国太郎
(生名島出身)



久保田権四郎
(因島出身)

因島・因北小学校の取り組みに見る 郷土愛の涵養

■久保田権四郎(因島)を学ぶ
 中国新聞 1月25日備後版
 に、隣島因島の因北小の5年生
 68人が、郷土の偉人・久保田
 権四郎について学んだことを発
 表した記事が掲載された。

久保田権四郎(旧姓大出)は
 明治3年、因島は大浜村の貧し
 い農家に生まれた。やせて小柄
 だった権四郎は「ハナタレ権」
 とからかわれ、学校へは余り行
 かず、瀬戸内海を航行する蒸気
 船にあこがれ、あんな大きな船
 をつくる西洋鍛冶屋になりたい
 と願っていた。出世して親に楽
 をさせたいと15歳の時大阪へ
 出て鋳物屋の丁稚奉公に入る。
 勤勉に仕事を覚え、粒々辛苦の
 節約、倅約すえ、当時の金一〇
 〇円(今に換算すれば一二〇〇
 一三〇万円。価値観がちがうの
 で単純に金額で比較するのもど
 うかと思うが)の資金を貯め、
 19歳の時「天出鋳物」を創業。
 これが現在のクボタ(久保田鉄
 工所)の前身である。

先だってその発表の一員だっ
 た友人の子が、親子で遊びに来
 て、発表の様子を語ってくれた。
 とりわけ貧乏だったこと、ハナ
 タレとからかわれたこと、子ど
 もの時大阪に出て一所懸命仕事
 にはげみ、若くして会社を作っ
 て成功したこと、などを熱心に
 語ってくれた。

■夢と希望と誇りと歴史
 学習した子どもたちには、そ
 れぞれの受け止め方があったに
 しても、こうして地域の偉人、
 ことに我が国の近代化に貢献し
 た人のことを、幼少期に地域の
 誇りとして語り継ぐ学習がされ

子どもたちに夢と生きる希望を

■光を当て続けねば忘れられる
 我が町にもその意味では多く
 の偉人が居る。しかしいまだき
 積極的に地域の偉人に接する学
 習がなされているのだろうか。
 旧町村時代には「町の暮らし」
 「村の暮らし」として、社会科
 副読本が教育委員会から配布さ
 れていた。当然偉人も含まれて
 いたが、使い方は教師の裁量に
 委ねられていたらしい。それは
 ひとつの在り方として尊重だが、
 子どもたちには十分な学習の機
 会が持たない可能性もあるかも
 しれぬ。さあならぬか、すでに
 不惑を超えているが筆者の子ど
 もなども、高校受験の面接の際
 郷土の偉人を探られ、答えに
 窮したと言っていた。むろん我
 が子の勉強不足であるが、ひっ
 そりとおのが胸に手を当て考え
 てみても、では誰を郷土の偉人
 として筆頭にあげるべきか?
 いままでこそあれこれ学習の末、
 あの人も、この人もとは言える
 が、幼少期に、あの人がこの町
 (村)の偉人、恩人だと心に刻
 んだ記憶はよみがえらない。著
 碌と言われればそれまでだが、
 この通信に「日本海員組合を
 創った生名島出身の濱田国太郎」
 のことを掲載しているのは、よ
 くて彼の顕彰をしたいのと、そ
 のため彼のことをよく知っても
 らいたいからにはかならない。

■濱田国太郎(生名島)を学ぶ
 國太郎は明治6年生まれで久
 保田権四郎と同時代人。自然災
 害で家業が没落、やむなく小学
 校をやめ12歳で帆船に乗り組
 み海上労働者となる。長じて当
 時の劣悪な船乗りの待遇改善に
 情熱を傾け、労働組合をつくつ

きんぐちん

青木喜代子

今年の年末ジャンボ宝くじは、
 なんと十億円。早々に夢を買
 いました。
 「ねえ、十億円当たったらど
 する？」私のひと言で、夢見る
 夫婦の会話は暴走気味。
 「まずアム君のスポンサー
 になる。」トライアスロンをや
 ってる甥と約束したらしい。
 「ハイ、子どもに一億円ずつ。」
 「ハイ」「次は津波の心配をし
 ないでもいい高地に平屋の家
 を建てる。」
 私は今の家が好きだから離れ
 たくないけど、確かに海抜ゼロ
 メートルは恐しい。ともかく夫
 は、一円も残さず使いたいらし
 い。
 私もひとつ欲しいものがある。
 長年憧れている赤いミニック
 パー、屋根はユニオンジャック
 の描いてある一九六〇年代の
 型がいい。車を買換える度に
 思うけど、実用的でなく実行不
 可。それなら宝くじ一等が当た
 った時には買おうと、ひそかに



るんだらうか...
 夫は一回でいいから一等賞欲
 しい! 当たったら二度と買
 いませんから!と、毎日叫んで
 いる。もし私が赤いミニにご機嫌
 で乗っていたら、あつ!宝くじ
 当たってたって思ってください。
 みなさんも宝くじ買って、暮
 れのあわただしい毎日を、夢
 ながらバタバタ働きません
 か? そして、よいお年を!

て資本家と対決した。
 かたや資本家、かたや労働組
 合。取り組みは真逆だったが共
 に瀬戸内の寒村に生を受け、郷
 里を含む国民全体の生活向上に
 全力で尽力した。
 地域の偉人について子ども達
 に学ばせることは、学ぶ者の生
 きる力の滋養になる。そして
 人々が互いに認め合い、協力し
 合うことの大切さを、子どもた
 ちが生きていく時代だからこそ、
 身に沁みさせられる方法のひと
 つであると思うのです。

やよみ亭
【映画研究会】
 12月15日(火)
 自由参加 夜7時~

 役所広司・小栗旬

やよみ亭 出よう会
 ・地区のお年寄り達の交流
 会です。毎月第2火曜「や
 よみ亭」第3火曜「弓削土
 生集会所」で開催。12月はし
 め縄作り。上弓削文化祭で置
 ってきました。



地域経済事情・昔と今と未来

■因島モール棧橋事情

本年十二月一日から隣島因島にある土生商船の三原航路(上島町生名立石港〜三原港)にある島町生名立石港で、因島モール(集合商業施設・ハローズ、ユーホー)棧橋です。

因島における大規模スーパーの動向はなかなか激しいものがあり、直近では生鮮食品の品質で人気の高かった「ユアーズ因島店」が撤退しました。そのユアーズ近くにあったユーホーが、一昨年九月に施設を田熊地区に移し、現在の因島モールとなつています。その元ユーホーの場所に、新たな商業施設が進出する噂が絶えずあり、旧施設の解体も始まっています。どういふ業種が来るかで、わが町への影響もあるでしょう。わが町では、弓削因島航路が九月末で廃止になり、それに代わるにバス便で対応というのが行政の当面の方針です。しかし、なじんでいた交通体系が変われば、住民の誰もが使い勝手

海員組合を創った男・探訪

濱田國太郎を顕彰する会 (参加自由)
(毎月25日13時〜。生名中央公民館2F青年学級室)
(19)

【濱田國太郎の出家】 ⑤

吉井良久 (雷声寺住職)

(前号つづき)

・東大寺の公開学林(学校)には若い各宗の僧侶や修学生が沢山学習に来ていた。ここで國太郎さんにとって運命の出会いが待っていたのである。國太郎さんは自分と同じような小柄な僧侶に目が向いた。何となく話しやすかった。難しい理論や教義好きの秀才肌タイプではなく、話好きで行動的社交的な僧侶であった。その名前は、清原實全、融通念佛宗の僧侶である。國太郎さんはこれまでの経過と雷声寺の状況を一気に話した。實全和尚はしっかりと話をきいてくれた。そして協力を惜しまず対応すると約束してくれた。國太郎さんはそれまで「融通念佛宗」という宗派はおそらく知らなかったでしょうし、まさか身近な宗派になろうとは夢にも思っていなかった。

・これをきっかけに二人の交流が始まり



・讃岐松尾寺から神戸に運ばれる本尊金比羅大権現(海父・濱田國太郎村上貢者より)

昭和12(1937)年、剃髪式を行い融通念佛宗の僧籍を得て、ともかく僧侶の仲間入りを果たしたのである。

・しかし國太郎雷声上人は坊さんには成ったのだが、住職資格である「教師」の資格はまだ持っていない。真言宗との間で交渉が難航した同じ課題があったのである。最短でも僧籍取得以降7年を要する。6度の修行、1年間の修学をおさめなくてはならない。國太郎さんはこの年(昭和12年)で64歳。修行や修学を改めて受けるにはかなりハードな年齢でもあった。規定上は誰かの住職責任(融通念佛宗教師)僧侶のもとでの、雷声寺住職の融通念佛宗寺院活動承認という形をとらざるを得なかった。

議 員 活 動 録

(33) 上島町議会議員 平山和昭



ハローズ(食料品)、ユーホー(日用品)と船会社土生商船のタイアップで、地域住民、尾道・三原両市および上島町長ほかで開港式を催行し祝う。

■あちらを立てれば、の地域事情
モール棧橋開港に先立ち、施設の広報担当者から、この件に関し意見を求められました。もとより議員の立場からしても、一消費者の立場からしても、上島町民の生活向上への選択肢

のよい形になるまでには相当の時間がかかるでしょう。そうした中でモール棧橋への寄港です。

■流れ止まぬ現世、とふ事情
魚島航路に關しては確たるものではないものの「弓削から因島まで、魚島在住以外の人でも利用出来るよう県、国にかけあつて、実現する可能性があり」げな町長の発言も出てきました。筆者は、議員の立場から、生名立石〜三原航路の弓削までの延長を事業者にかけあうよう町当局に提案しました。まだ実現に至っていませんが、多くの高齢者の希望だからです。しかし状況が変わってきました。

が増えることに否やのあるうはが足りない。しかし、と別の気がかりが頭をもたげてくるので、我が町にあつては、隣島、あるいは本土の医療機関へ通う交通手段の確保が最優先で求められています。

かつては尾道〜弓削航路があつて、隣島因島への渡航も対応できていた。それが廃止となり、弓削〜因島専業航路も廃止となった。今治〜因島、魚島〜因島航路が残つてはいるが、魚島航路は魚島住民以外は弓削〜因島間の乗船は出来ない。その現実の中で町民は、ことに高齢の方々は不満をため込んでいます。

ひとつは、モールに棧橋ができたこと。もうひとつは、ユーホーの跡地に噂される大手スーパーが開業すればどうなるか?さらなる集客競争がはじまり、顧客の囲い込みのため、三原航路の弓削港までの延長も、運航業者のほうから検討を始めるかもしれない。もしそうなら、弓削にある農協店や生協店を地域住民がしっかりと守るのかが気がかりなものです。

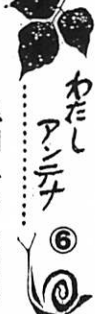
尾道市立美術館
コレクション展Ⅱ
テーマ: 没後160年
平田五藏を中心に
期間: 平成27年12月5日
~28年1月31日
入館料: 一般300円・学生200円・中学生以下、および70歳以上は無料。
尾道市立美術館
休館日: 月曜日(但し1月11日は開館)。年末年始(12月29日~1月3日)

■われらは如何に?の事情
地域経済を廻すのは消費者である地域住民です。航路だって、客が減れば簡単に廃止される。町内の商業施設も、実は例外ではないのではないか?便利という言葉と裏腹に不便が増長する現実。地方は地域経済をどう守ってゆくのか。我らはいま、抜き差しならない課題を突きつけられていますか?

弓削通信がお手元へ届く頃には今年もあと半月!お正月に向けて皆さん準備万端ですか?私は何と家の掃除だけでも済ませたいところです。さて先日、私の住んでいる地域で老人クラブの皆さんが感謝デーと題してお昼ご飯の振舞いと、地域の写真展を開催して下さいました。お昼のひととき地域内外の方々が集い、振舞いのカレーを食べ、懐かしい写真に



目を細めていらつしやいました。私はこの地域で育つたわけではありませんが、各々が持ち寄つた思い出の写真たちを見ていくと、我が事のように愛おしく感じました。撮る人と撮られる人、そこにある空間、その時の空気が想いが伝わってくる。これが写真の魅力でもあります。「昔は良かった」簡単に言ってしまう言葉だけど、昔があつて今がある。今を踏まえて未来を作ろう。昔の賑わいはなくなつてしまつたけど、今ある姿で賑わいを作っていく。そんな老人クラブの皆さんの活気に元気を頂いたひと時でした。今年も沢山の出会いとご縁に感謝ひとしお、ありがとうございます。皆様、どうぞ良いお年をお迎え下さいませ。



黒川みき(天三島)
やつぱり来たか!師走
弓削通信がお手元へ届く頃には今年もあと半月!お正月に向けて皆さん準備万端ですか?私は何と家の掃除だけでも済ませたいところです。さて先日、私の住んでいる地域で老人クラブの皆さんが感謝デーと題してお昼ご飯の振舞いと、地域の写真展を開催して下さいました。お昼のひととき地域内外の方々が集い、振舞いのカレーを食べ、懐かしい写真に